

現役世代の参加促進を図るための環境づくり事業

課題

現在、防犯ボランティアは構成員の高齢化・固定化といった課題に直面しており、課題に対応した重点的な取組を早期に行わなければ、活動が一過性のものに終わってしまう可能性が高い。

事業の概要

現役世代の参加が見込まれる**夜間活動**や**青色防犯パトロール活動**を行おうとする団体に対し、活動に必要な防犯パトロール用品や現役世代の参加募集を行うためのチラシ等を支援することにより、現役世代が活動に参加しやすい環境づくりを推進し、自主防犯活動の持続可能な活性化を促進する。

事業の流れ

防犯ボランティア団体の公募

各都道府県警察において、

- 夜間活動や青色防犯パトロール活動を行おうとする既存の団体で、かつ参加日数の多寡によらず、現役世代を広く募集しようとする団体
- 現役世代を中心に夜間活動や青色防犯パトロール活動を行おうとする新規団体を公募。



各都道府県警察

公募

応募



現役世代を募集する既存団体

現役世代を中心とした新規団体

都道府県警察から警察庁へ、推薦

警察庁において、実施団体を選定

実施団体への支援



警察

支援



実施団体

・夜間活動・青色防犯パトロールの開始
・チラシ等を活用した現役世代の参加募集

【支援内容】

- 活動に必要なパトロール用品の無償貸付
{ 青色回転灯、青色自発光式パトロールベスト、車両用マグネットシート、青色LED付懐中電灯 }
- 現役世代の参加募集用チラシの配布
- 防犯講習等の実施
- 地域安全情報の提供
- 合同パトロールを通じたノウハウの伝授
- 取組状況の広報等

非行少年を生まない社会づくりの推進 ～ 少年の健全育成 ～

少年非行の背景

少年非行の背景には、

- ・少年自身の規範意識の低下とコミュニケーション能力の不足
- ・従来少年の規範意識醸成を担ってきた家庭、地域社会の教育機能の低下
- ・少年が自分の居場所を見出せず、孤立化し、あるいは疎外感を抱いている状態等の問題

「犯罪が起きにくい社会づくり」の一環として、次の2本柱を推進

- 社会の側から少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動の推進
- 少年を見守る社会気運の醸成

推進方策

各都道府県警察において「非行少年を生まない社会づくり」アクションプランの策定及びモデル事業の実施

少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動（待受け型から出前型へ）

少年や家庭のSOSを待つのではなく、積極的に手を差し伸べ支援
地域住民や関係機関の協力を得て、対象少年と社会とのつながりを構築

- ☆ 警察職員のほか、少年と年代の近い大学生、地域居住の現役世代の協力を得た定期的な連絡や訪問活動
(例)大学生ボランティアをメンターと位置づけて学業指導等の支援
- ・ 少年の社会奉仕活動、体験活動等の場・機会の拡大
(例)保護観察中の少年による社会奉仕活動等への協力
- ・ 関係機関と連携した就学・就労支援



少年を見守る社会気運の醸成

少年の規範意識の向上、社会の絆の再生

- ☆ 警察職員や少年警察・防犯ボランティアを中心とした「少年への声かけ運動」
- ・ 少年等からの電子メールによる相談受理体制の拡充
- ・ 低年齢少年やその保護者を対象とした非行防止教室の開催
- ・ 企業等の現役世代等を対象とした情報発信活動

